

令和4年度 学校自己評価書

鈴鹿市立椿小中学校

評価項目	本年度の活動（具体的な手立て）と指標	学校関係者評価（◎成果 △課題 ・意見）	今後の改善点（●成果 ▲課題 ⇒改善策）
授業等	①全国学力学習状況調査、みえスタディ・チェックの分析による学習定着の確認 ・弱みの把握による授業改善 ②授業研究会の実施 ・全教員が年間1回の研究授業の実施 ・聴きあうことから主体的に参加する学び合い授業の創造（ペア・グループワーク） ・子どもが自ら話し出す魅力ある学習課題（めあて）づくり ③既習事項の定着（学びなおし）につながる学習指導 ・全校で取り組む「読み上げ計算」授業開始時 ・植タイム（補充学習）年5回 ・TT、複数配置による個別の授業支援	①◎全学年が取り組むことに意義がある。 ◎全職員で共通理解・指導がわかりポイントが押さえられているのが良いと思います。 また、前向きな取組ができています点も良いと思います。 ③◎植タイムでの「スキルタイム」購入は採点をさせてもらうボランティアにとってもありがたかった。 ◎①②③とも、継続を願います。 ・計算カード・九九・家庭学習向きでよかった。学年ごとにテーマを決めて取り組んではどうか。	①●部会に分かれて問題を解き、分析をして、全職員で共通理解することで、各学年の授業で何を重点的に指導しなくてはいけないかが分かった。 ●2学期から始まった約15分の読み・書くワークシートを全学年が取り組むことができた。 ②●全職員が年間1回の研究授業を行い、さらに、低学年・高学年に分かれて指導案検討することで、職員一人ひとりが前向きに取り組むことができた。 ▲指導者がグループやペアでの学習形態が学び合いと捉えているところがある。 ▲教師が主体になる授業の形からは脱却できていない。 ⇒協同的な学び・子どもが主体になる授業づくりを全職員で共通理解し、研修を行う。 ③●計算カードや九九の練習のように、家庭学習で出るのが効果的だった。 ●植タイムでは、前学年のワークシート（スキルタイム）を購入し、学びなおしを行ったが問題数も少なく、児童は意欲的に取り組む姿が見られてよかったと思う。 ●TTや複数配置があるおかげで、学習に課題のある子に効果的に支援を行えた。 「勉強はよくわかる」91.0% ▲話し算：毎時間授業できないときは、ほかで課題にするなどして習慣にしていける。⇒前学年の内容だけでなく、プラス読みの学習が必要である。
家庭学習	④日常的な家庭学習の定着 ・「家庭学習Up5」による学習環境改善と「自主学習」の推進 ・日常的な「学年目標時間達成率」80%以上	④◎継続を願います。 ◎家庭学習の定着、内容の深まりができてよいと思います。今後も家庭と連携をとりながら子どもたちが意欲的に取り組めるよう、指導をお願いします。 ・学力低位の児童には、基礎学力を少しでも底上げするよう、宿題を出していく方向が良いのではないかと。 ・算数のプリント・ドリルの答えは、子どもにあえす次の日に隣の子に採点してもらう。違う箇所は、なぜかを説明してもらうなどをしてはどうか。 △家庭学習についてはもっと保護者にも声をかけを。	④●高学年は毎日・それ以外は週一回の取り組みが定着してきた。内容が深まってきた子もみられる。いい取り組みをまねたり、写したりして内容が変わってきた。 ●出された宿題は多くの子ができています。 「家庭学習（自主学習）をしている」86.5%（1学期より8.5%増） ▲学力が低い子や家庭の見守りが少ない子の内容は浅い傾向にあるように感じる。 ▲家庭学習ができていない子は変わらない。取り組み方が雑であったり、優先順位がつけられずできなかったりする。また、学習目標時間は達成に至らない学年もあった。日頃の家庭の見守りや子どもの習慣づけが大切である。 ⇒子どもだけでは取り組みにくい課題がある。家庭訪問、保護者会、通信などで継続して呼びかける。「家庭学習強化週間」の取組も継続して行う。
学力の向上	⑤図書巡回指導員、図書委員会、図書ボランティアの連携と活用 ・「ブックトーク」などの読書活動 全学年学期に1回 「お話し配便」月2回 ・子ども主体による読書強化週間の取組 年2回	⑤◎継続を願います。 ◎様々な取組により子どもたちが本に興味を持って目にする耳にする機会ができるのはとてもよい事だと思います。今後もその様な機会等を通して子ども達に読書の大切さを伝えていって頂けたらと思います。 △図書のボランティアさんと指導員さんの連携はどうだったのか。 ◎小学1年生を強化する。→6年生の読み聞かせを取り入れる事で1年生からの定着と6年生は声をだし相手にわかるように意識して読み聞かせる。プレゼンとか意見を声を大きく出し言える子になる。	⑤●ブックトーク：関連図書を紹介してもらうことで物語への興味がでた。 ●お話し配便：たくさんボランティアの方に協力してもらえ感謝の気持ちが伝わった。学年の発達段階を考えてもらった選書がよい。職員が読み聞かせを行うのも非常によい。 ●図書委員：図書祭り、ラッキーナンバーの取り組みなどで図書室の利用が増えている。 ●朝読書も定着してきている。読むことに抵抗がなくなってきた。 ▲学期に1回を目途にしたが、重要単元が重なるので、計画的に行う必要がある。 ⇒学期に1回の数字ではなく、1年間を見据え、計画的に行う。
特別支援教育	⑥通常学級での支援 ・校内支援会議の開催月1回、個別の支援会議の設定 学期1回、研修会全職員参加1回 ・全職員でのかかわり（交換授業、教科担任制、TT）	⑥◎職員間で連携をとり、全児童の様子について共通理解できているのはとてもよい事だと思います。また、少人数学校ならではの取組もあり、良いと思います。 ◎特別支援学級席の児童の表情や、他の子ども達とのかかわり方がとても良いと感じている。これは先生方の取り組みの成果だと思う。 △「勉強がわからないときに聞くことができる」環境づくりを工夫すること。85.6%より更にUPを目指す。	⑥●校内支援会議を毎月1回行うことで児童の様子について共通理解ができた。そのことで、全職員で連携を取りながら児童を指導し見守ることができた。 ●高学年の教科担任制、交換授業、TTをすることで、担任1人で抱え込まず、全職員で全児童を見守る姿勢で向き合えたことがよかった。 「勉強がわからないときに聞くことができる」85.6% 「学校は子どもの支援を適切に行っている」96.7%
プログラミング教育	⑦ICT活用指導力の向上 ・ICT支援員との連携月2回 深い学びを生み出す効果的なICT活用 ⑧実践的な研究会実施年1回	⑦◎継続を願います。 ・今後のグローバル化はどんどん進んでいく。子どもたちの吸収力の速さには目を見張るものがある。 ・今後も、もっと必要になるであろうプログラミング教育に力をいれて頂きたい。	⑦●ICTサポーターは低学年では、生活科や体育などでクローームブックの操作支援などで活用した。子どもたちも操作に慣れてきた。高学年では、国語や社会など幅広い教科でICTサポーターを利用するようになってきた。 ●クローームブックを活用して、新たな視点をもつ子どもたちは増えてきている。 ▲その時々でICT支援員の活用を考えると多い。計画的にICT支援員を活用したい。 ▲深い学びを生み出すようなICTでの指導はまだできていない。 ⇒重点を絞り、計画的にICT支援員を活用するシステムづくりをする。 ⑧●夏の研修会や職員会議の場でアプリケーションやソフトの紹介を行ったことで、それを活用する職員が増えてきている。 「クローームブックは楽しい」91.0%
キャリア教育	⑨「すずか夢工房」をはじめとする地域や外部講師の積極的活用 ・年30回以上	⑨◎継続を願います。 ・もっと子ども達にきいて取り入れる ・キャリア教育は地域の方や外部講師の方々をお願いできるならば続けてほしい。 ◎まだまだ治まらないコロナ禍の制限がある中で子ども達に様々な経験等の機会を設けて頂きよかったですと思います。	⑨●たくさんのお話し配便の方に来てもらい子どもたちにとって、様々な経験や感想をもつ機会になっている。スポーツ・ダンス・EE・アグリロマン等、子どもたちのキャリア形成に役立っている。 「将来の夢や希望がある」85.6% 「人の役に立つ人になる」97.3% 「自分には良いところがある」76.5%
多文化共生教育	⑩外国語学習の成果活用 ・英語表現劇「植ワールド」の取組 ・英語と外国の文化に触れる EEタイム（低学年）年10回	⑩◎継続してほしい。 ◎植ワールドで先生方、子ども達の努力が垣間見え何より子ども達の楽しそうな姿に感動した。先生や子どもの負担軽減を考えながらではありますが、今後も楽しみにしています。 ・教職員や子どもの負担があるとの意見があるが、ボランティアを効果的に活用したり、取り組む時期を工夫したりして、今後も継続してほしい。 △見る人がわかりやすいような工夫もあるとよい。	⑩●植ワールドを行うことで、児童は英語への興味・関心が高まってきている。 ●EEタイムでは、いろいろな活動を通して、外国の文化を知ることができた。 植ワールドの指導などもしていただくのでありがたい。 ▲行事を見直し、教職員や子どもの負担を減らす必要がある。伝統として、残していくのが望ましいであろう。 ⇒植小のよさを再認識してカリキュラムマネジメントを行う。
コミュニケーション能力	⑪異年齢との交流 ・わくわくタイム（異年齢遊び）月2回 ・児童会主催による学校集会、あいさつ運動 各月1回	⑪◎少人数学校のいい所でもある他学年との交流を通してコミュニケーションがとれる。とてもよい事だと思います。 ・あいさつ運動、やれない子どもをどうあいさつ出来るように持っていくか？大きな声が出せる子ども・意見が言える子どもに育ててほしい。 ・家でとりくみができる様にPTAと目標を決めて行ってはどうか。（大人になったときに大事）	⑪●児童主体となり予定通りにできている。 「わくわくタイム・集会は楽しいですか？」1・2学期ともに98% 「学校は子ども主体の活動を大切にしている」100% ●月に1回のあいさつ運動の取り組みによって、あいさつをする啓発にはなった。 ▲「あいさつを自分からしている」1学期：90.3%→2学期：87.4%になり、継続的なあいさつにはつながらなかった。 ⇒児童会中心に行った3学期の取組は非常に効果的であった。児童会だけでなく職員・保護者・地域と連携した取組が必要である。
豊かな心と体の育成	⑫体力テストの分析による弱みに対する具体的な対応策の実施 ・体育の時間の「5分間サーキットトレーニング」週1回 ・体を動かす活動や遊びの保障	⑫△休み時間以外に出る遊ばない子どもが多くなった事に驚きです。何をしているのでしょうか。体力低下を言われている中で、何らかの対策が必要なんですね。 ・コロナ禍で子どもの体力が落ちているという新聞記事を目にした。植小も例外ではないので、5分間サーキットトレーニングや積極的に外で体を動かす取り組みを続けてほしい。 ・何か一つ、『例：ドッチボールの強化』運動会遊技に取り入れる。 ・わくわくタイムを活用した遊びを作る。	⑫●体力テストの結果を分析して、5分間サーキットトレーニングの内容を考えた。全校児童が共通して取り組むことができるように、何種類ものCDを作成し、さらに、夏季休暇には、職員で研修の時間をとり、実際に教員も5分間トレーニングを体験するとともに、足並みを揃えた。 ●体育委員会と連携して、遊びの場を確保した。 ▲すぐ結果には表れないため中長期的な取り組みが必要だ。 ▲本校児童は休み時間以外で遊ぶ子が少ない。晴れている日は積極的に外で体を動かせるように学校全体で対策をとってほしいとよい。 ⇒引き続き、弱みの改善につながるような体育の授業だけでなく、体育委員会・わくわくタイムでも体力向上を視点に取組を行う。
基本的な生活習慣	⑬チェックリストを活用した保護者啓発 ・「鈴鹿中学校区家庭学習強化週間」の取組年3回 ・「学校アンケート」年3回	⑬◎アンケートにより家庭との連携をとり、基本的な生活習慣の共有ができたのはいいと思います。 △朝ごはんは100%目標に、睡眠…100%目標に取り組んでほしい。 ・ゲームスマホは各家庭でルールを作ってもらい、目標を家庭に貼り守らせる。	⑬●校区で連携した学習強化週間の取組と学校アンケートの結果のフィードバックにより、学校や子ども達の課題を共有でき、積極的な協力につながることができた。 ▲アンケート内容は、他のアンケートとの兼ね合いや状況を見て適切に変えていく必要がある。 「朝ご飯を毎日食べている」92.8% 「睡眠をしっかり取る」89.2% 「ゲーム・スマホ3時間以上」28.8% ⇒スクリーンタイムの増加は喫緊の課題である。家庭・地域との連携も視野に、継続した取組を行う。
楽しく安心な学校づくり	⑭学校生活についての満足度向上 ・「学校は楽しい」97%以上 ・欠席理由のあいまいな児童に対する家庭との連携 ・不登校0名 ⑮いじめアンケートによるいじめの把握（年3回） ・組織的な対応と指導 いじめ案件100%解決 ・未然防止啓発活動の充実 ⑯登下校の安全 ・校長による登下校指導（毎日）危険箇所点検（1回） ・子どもを守る家の確認（1回） ・交通安全教室の実施（年1回）	⑭◎学校が楽しいと思える子どもが多いのはとてもうれしいと思いますが何らかの課題をかかえている子どもにも楽しいと思えるような学校であればと思います。 ・行き渋りや保健室登校の児童への配慮・手立てを継続してほしい。 ⑮・いじめは100%解決を目標に学級ごとに意見箱を作り、人とか学校の改善点を子ども目線から改善してはどうか。 ・いじめの未然防止も大切だと思いが、いじめがあった時、双方の心のモチベーション考え方等の指導、対応も考えていただけたらと思います。 ⑯◎1人で登下校することがない様に、配慮していただいている点は、本にありがたい。△見守り青バトを含め、地域との連携強化をしていく仕組みづくりが必要である。	⑭●「学校は楽しい」1学期：91.1%→2学期：93.7%になって改善された。 ●担任、養護、管理職、特別支援Coの連携がとれていた。不登校児童はいないが、行き渋りが見られる児童や学習や生活面課題を抱えている児童はいるため、今後も継続して見守っていく必要がある。 ⑮●アンケートの結果や普段の様子をもとにいじめの把握、未然防止に努めることができた。また、事案に対しては複数人で連携しながら対応できた。 「いじめがおこらないように気を付けている」93.7% ⑯●本校は登下校とも一声、学年部で登下校するため1人で登下校することがない。しかし、椿大神社や高速道路等の影響で車の交通量は多い。 ●日毎安全に気を付けることを指導している。年1回の交通安全教室は今後も実施していく。
地域と連携	⑰情報提供の充実 ・学校だより年間30号以上発行、学校ホームページを年20回以上更新 ・学校自己評価の提供と学校関係者評価の実施 ・満足度調査（児童、保護者）の結果提供 ⑱地域ボランティアの効果的活用 ・植タイム（延べ30人） ・授業・行事の支援（延べ20人） ・お話し配便（延べ50人）	⑰◎忙しい中での学校だよりの発行で子ども達の様子などがよく伝わってきたと思います。 ⑱◎たくさんボランティアの方々協力が得られとてもありがたい。学校との信頼等があるのがよくわかります。 △人材（ボランティア）確保が急務。後継者不足。	⑰●学校だより32号発行（12月末）で校内の様子を伝えることができた。また、種々の調査結果は早々に伝えている。学校関係者評価は学校運営協議会と連携して行う予定である。 ▲ホームページ更新には限りがある。 「学校は教育方針や活動内容、緊急連絡を伝える」96.7% ⇒HPにこだわらず、効果的な情報伝達方法を適宜取捨選択し行う。 ⑱●植タイム（延べ37人）授業・行事の支援（延べ18人）お話し配便（延べ74人）の方にお世話になった。必要に応じて効果的に補助していただいた。 「学校・地域・保護者連携はうまくいっている」94.5% ⇒学校運営委員長・地域COの協力も得ながら、地域とともにある学校づくりを継続して行う。
働き方改革	⑲定時退校日の設定（月2回） ・その日に退校できる職員の割合80% ⑳会議の効率化と時間短縮 ・朝の打ち合わせや職員会議資料のデータ化 ・60分以内に終了する会議の割合70%	⑲・行事内容を先生しかできない仕事と、ボランティアに依頼できる内容に区分して依頼する。△ボランティアに依頼する内容も含めて段取り良く進めてほしい。 △長時間労働、残業代ゼロetc、教員になる魅力が減少し、教員の定員割れが心配される昨今です。定時退校日（月2回）を100%に。 ⑳・目標達成の為、モデル学校があれば聴きに行き、実際に取り入れてはどうか。 ◎様々な対応や仕事量が増える中、働き方改革を言われても…という声が聞こえてきそうなか、大変な思いをいただいている教職員の方々に頭がさがります。ありがとうございます。	⑲●定時退校日の設定を行事計画に入れたが、達成率平均72%。年度初めや行事の前には勤務時間が長くなる傾向がある。仕事内容の効率的な引き継ぎや行事内容の精選が必要。 ⑳●朝の打ち合わせや職員会議資料のデータ化を行うことで効率的な会議進行が徐々に定着しつつある。 ▲60分以内達成平均50%。昨年度より10%改善。 ▲議事内容が多さや内容によっては長引いた。 ⇒植小のよさを再認識してカリキュラムマネジメントを行い業務の効率化を図る。